

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	パートナーが妊娠期にある父親に対する助産師による育児支援プログラムの検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高木 静
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目	パートナーが妊娠期にある父親に対する助産師による育児支援プログラムの実践
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 日本においては、個人としての働き方や生活への関心の高まりとともに、2010年ころから育児をする男性が「イクメン」と呼ばれ、厚生労働省が「イクメンプロジェクト」を開始するなど父親の子育てが注目されている。しかし、日本と諸外国の父親の子育てへの関わりを比較した調査によると、日本の父親は、食事の世話という子育てにおける基本的な世話をする割合が最も低く、平日に子どもと過ごす時間も少ないことが明らかになっている（牧野ほか編著，2010）。また、父親が子どもと「遊ぶ」ことを「育児」ととらえて「世話」の部分から自らの役割として積極的に分担しようとしていないことも明らかになっており（大和・斧出・木脇，2008）、父親の子育てについて父親自身の認識とそのパートナー（母親）の認識に違いがあることも指摘されている（工藤，2016）。そこで、本研究では、パートナーが妊娠期にある父親に対する助産師による支援プログラムを実施し、その効果を検討することを目的とした。</p> <p>【研究の方法】 開業助産師、病院勤務助産師らとともに、2021年9月、Zoomを用いた2時間のオンライン双方向型プログラム「ハッピーパパマタニティ講座～家族を笑顔にするパパになる～」を実施した。参加者は、パートナーが妊娠期にある父親5名とそのパートナー5名であった。プログラムは、日本の父親の子育ての実際に関するミニ講義の後、産後の親がよく出会う場面の動画を視聴、父親・パートナーに分かれてのグループワーク、グループワーク内容の共有であった。プログラム実施者は全員がカナダ保健省により開発された親支援プログラムNobody's Perfectファシリテーター資格をもつ助産師であり、参加者たちが親となっていく過程をファシリテートすることに努めた。参加者には、後日アンケートに回答してもらった。</p> <p>【結果および考察】 参加者は、講座について「非常によかった」「よかった」と回答し、父親からは、産後の親がよく出会う場面の動画に考えさせられた、父親同士でディスカッションできたことがよかったなどの感想が得られた。また、パートナーからも、父親の気持ちを知ることができてよかった、出産・育児の悩みは自分だけでないと知ることができたなどの感想が得られた。父親だけのグループワークで気楽に参加できたという感想もみられ、これから子育てのスタートを迎える同じ立場の父親たちが交流することのできる機会の必要性が示唆された。</p> <p>【今後の展望】 効果的なプログラムとなるよう、参加者の追跡調査やプログラム実施者への聞き取り調査を行い、検討していく。</p>